

株式会社 カスタム

販売店様へ お手数でも必ずご記入の上お客様へお渡しください。

〒101-0021 東京都千代田区外神田3-6-12  
TEL (03) 3255-1117 FAX (03) 3255-1137  
<http://www.kk-custom.co.jp/>

**CUSTOM**  
**TOKYO JAPAN**

- 本器の分解、改造はしない。  
修理、校正が必要な場合は、当社もしくは購入された販売店にお問い合わせください。
- 本器を火中に投入しない。  
破裂による火災、けがの恐れがあります。
- 電池は乳幼児の手の届かない所に置く。  
万一、電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。
- 電池のアルカリ液が目に入ったときは失明などの恐れがありますので、すぐに多量のきれいな水で洗い流し、医師の治療を受けてください。
- 電池のアルカリ液が皮膚や衣服に付着した場合には、すぐに多量のきれいな水で洗い流す。
- 電池を火に入れたり、加熱、分解、改造などしない。
- 電池のプラス、マイナスを逆にして使用しない。
- 新しい電池と使用した電池や古い電池、銘柄や種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
- 付属の電池を充電しない。  
充電すると液漏れ、発熱、破裂の恐れがあります。
- 電池のプラス、マイナスを針金などで接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しない。
- 電池の残りが少なくなったら電池を交換する。  
重大事故や本器の損傷につながる恐れがあります。
- 使い切った電池は本器から取り出す。
- 本器が濡れている時や湿気の多い場所では絶対に使用や電池交換をしない。  
また濡れた手で本器を取り扱ったり、電池交換をしない。  
感電の危険があります。
- 指定されている電池以外は使用しない。
- 電池を交換する際は必ずクランプセンサを被測定物から離して電源を切ってからおこなう。  
電池交換後は電池蓋を取り付けて、ネジを締めてから使う。
- 長期間使用しない場合には、本器から電池を取り出す。

① クランプセンサ →

② クランプ開閉  
レバー →

③ 電源、  
バックライトボタン →

④ 非接触検電ボタン →

⑤ 非接触検電部 ←

⑥ 中心位置マーク ←

⑦ バリヤ部 ←

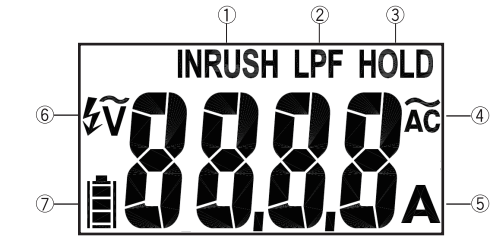
⑧ ローパス・フィルタ、  
突入電流測定ボタン →

⑨ 交流電流測定ボタン →

⑩ ホールドボタン →

⑪ 表示部 ←

5.表示



| 番号 | 内容                  |
|----|---------------------|
| ①  | 突入電流モード時に点灯します      |
| ②  | ローパス・フィルタモード時に点灯します |
| ③  | 測定値が固定されているときに点灯します |
| ④  | 交流電流を測定しているときに点灯します |
| ⑤  | 電流の単位(アンペア)表示です     |
| ⑥  | 非接触検電モード時に点灯します     |
| ⑦  | 電池の残りが表示されます        |

多い

少ない

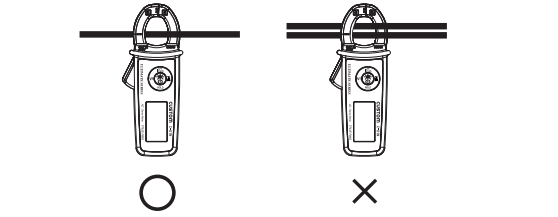
(備考)オーバーレンジの時は「OL」が表示されます。

6.測定を始める前に

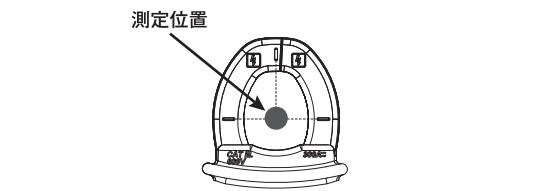
開梱したらずにキズや変色など外観上の異常や付属品に欠品がないかを確認してください。

6-1.電線のセット手順

- ① クランプ開閉レバーを握り、クランプセンサを開く。
- ② 電線1本をクランプセンサに通し、クランプ開閉レバーを離す。電線を2本以上通すと正しく測定ができません。



- ③ 中心位置マークの交差する位置に電線をセットする。精度よく測定ができます。



- ④ クランプセンサがきちんとかみ合っているかを確認する。

6-2.電源の入れ方、切り方

- ① 本器の電源を入れるときは巻を押す。
- ② 本器の電源を切るときは巻を1秒以上長押しする。
  - ・表示部に「OFF」が表示された後に電源が切れます。

7-4.データホールド

表示部に測定値を固定します。

- ① 測定中にHOLDを押す。
  - ・表示部に「HOLD」が点灯して測定値が固定されます。
  - ・電流値が変化しても表示は変更されません。
- ② データホールドを解除する場合はHOLDを押す。表示部の「HOLD」が消灯し、「現在の電流値」が表示されます。



(備考)突入電流モード、非接触検電モードのときデータホールドは使用できません。

7-5.オートパワーオフ

本器は約20分間無操作状態が続くと、ブザーが3回鳴った後に電源が自動的に切れます。長時間にわたって測定する場合など、オートパワーオフを解除する場合は以下の手順で行います。

- ① 電源が切れている状態でVを押したまま巻を押す。
  - ・表示部に「AoFF」が表示され、オートパワーオフが解除されます。

(備考)一度電源を切った後、オートパワーオフを再度解除したいときは上記操作をもう一度行ってください。

7-6.バックライト

本器には暗所でも表示部が見えるバックライトが搭載されています。

- ① 測定中に巻を押す。
  - ・表示部の「バックライト」が点灯し、約30秒後に自動で消灯します。
- ② バックライト点灯中に巻を押す。
  - ・表示部の「バックライト」は消灯します。

(備考)巻を1秒以上長押しすると本器の電源が切れます。

7.測定方法

7-1.交流電流測定モード

- ① 巻を押す。
  - ・表示部が「0.00A」になったら測定ができます。
- ② 電線1本をクランプセンサに通し、表示部の測定値を読み取る。
  - ・レンジは自動で切り替わります。

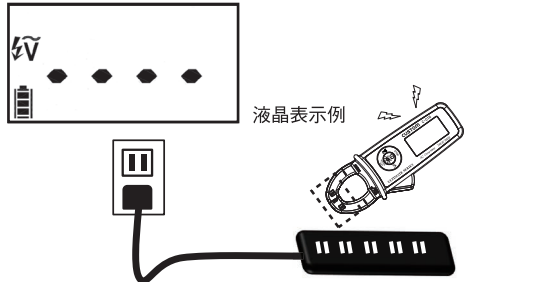


(備考)他測定モードから交流電流測定モードに切り替える場合は、Aを押す。

7-7.非接触検電モード

非接触検電モードは交流電圧のみ有効です。

- ① 巻を押す。
- ② 表示部が「0.00A」になったら、Vを押す。
  - ・表示部に「V」が点灯します。
- ③ クランプセンサの非接触検電部を測定したい被検電部に接近または接触させる。
  - ・約80V以上の電圧や電界を検知すると、表示部に「-」が表示され、同時にブザーが鳴ります。
  - ・検知する電圧や被検電部との距離により、表示部の「-」やブザーの鳴動は変化します。



(備考)非接触検電モードを解除する場合はVを押す。

- ・表示部の「V」が消灯し、非接触検電モードが解除されます。

⚠ 注意

- ・予め既知の被検電部で動作確認を行ってください。
- ・非接地側に接近または接触させることで表示部に「-」が表示されブザーが鳴ります。接地側では「-」は表示されず、ブザーは鳴りません。
- ・被検電部の状態によっては電圧を検知しない場合があります。感電防止のために、検知しなかった場合でも接触式検電にて電圧の有無を確認してください。
- ・接地（アース）していない被検電部に本器の非接触検電部を近づけたり接触させると、表示部に「-」が表示されブザーが鳴る場合があります。

7-2.ローパス・フィルタモード

インバータ機器などで発生し、被測定機器に入り込んで重畳する高周波ノイズを除去して、電流を測定するモードです。ローパス・フィルタモードは交流電流のみ有効で、確度保証周波数は50Hz～60Hzです。

- ① 巻を押す。
- ② 表示部が「0.00A」になったら、LPFを押す。
  - ・表示部に「LPF」が点灯します。
- ③ 電線1本をクランプセンサに通し、表示部の測定値を読み取る。
  - ・レンジは自動で切り替わります。
  - ・フィルタ特性：160Hzにて約-3dB



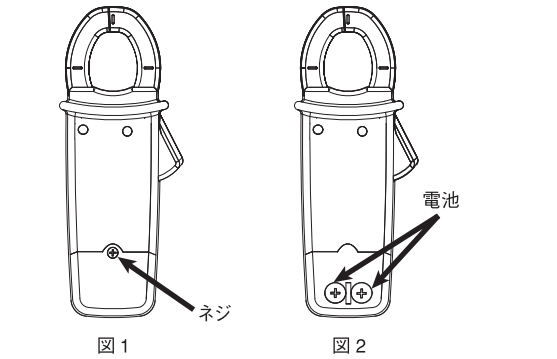
(備考)ローパス・フィルタモードを解除する場合はLPFを押す。

- ・表示部の「LPF」が消灯し、ローパス・フィルタモードが解除されます。

8.メンテナンス

8-1.電池交換

の点滅が表示部に現れたら電池の交換を行ってください。



- ① 本体裏の電池蓋にあるネジ1か所をドライバーで外します。(図1)
- ② 本体裏の電池蓋を外し、電池収納部から古い電池2個を外します。(図2)
- ③ 新しい電池2個を極性を合わせて電池収納部に設置します。このとき＋極性が上になるように電池を設置します。(図2)
- ④ 電池蓋を元に戻し、ネジをしっかりと締めます。(図1)

8-2.日常のお手入れ

- ・本器の汚れは乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ・汚れがひどいときは薄い中性洗剤溶液を浸し、固く絞った柔らかい布で拭き、その後乾いた柔らかい布できれいに拭き取ってください。

⚠ 注意

研磨剤や、アルコール、シンナー、ベンジンなどの揮発性溶液は表面仕上げを痛めますので、絶対に使用しないでください。